

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0160590071		
法人名	社会医療法人 恵和会		
事業所名	アメニティ西岡水源池 グループホーム 1階 百花		
所在地	札幌市豊平区西岡4条7丁目7番20号		
自己評価作成日	平成23年5月10日	評価結果市町村受理日	平成23年8月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0160590071&amp;SCD=320">http://system.kaigoioho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0160590071&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成23年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ケアプランの取り組みが本人の生活形態にそって細かく取り組むよう工夫し、職員間の情報もできてご本人のためのプランを徹底している。新しくご利用者が入居されるときは、入居前に担当していたケアマネージャーにケアプラン等の情報をいただいて職員と情報を共有し、ケアの計画を事前に話し合っている。認知症が重度な方で常に介助が必要で不安な気持ちのご利用者の方とは、馴染みの関係や信頼関係が強く安心してホームでの生活ができるように職員が協力し合っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、開設当時のホーム長を中心に、職員全員が利用者の考えや思いを尊重し、利用者個々の残存機能を活かし、ゆっくりでもできることは自分でできるよう、その人らしい生活支援を基本に理念の具現化に向け努力している。運営者は職員育成を重要視し、勉強会や外部研修への参加、業務をしながらの資格取得を薦め、職員の資質向上を図っている。地域との関係も良好で、避難訓練や防災システムの連絡網の協力や推進会議にも積極的な参加協力を得ている。母体法人である24時間対応の医療機関との連携や、ホーム長と職員1名が看護師であり、日常の健康管理が利用者と家族の安心につながっている。事業所内は広く明るく清潔で、利用者は家族的で親しみのある雰囲気の中で安心してゆったりと暮らしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員のネーム裏に法人理念とグループホーム理念を記載し常時携帯している。またケアプランは理念の実践に繋がる様に具体的なケア内容を意識して作成し職員全員で取り組んでいる。	法人理念と事業所の理念のほか、職員全員で考えた「私たちの標語」があり、3ヶ月毎に目標を掲げている。理念を記載したカードを携帯し、勉強会等で意義を確認し、日々のケアで実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の総会や地域活動(ゴミ拾い等)に毎回参加している。運動会などの行事にも参加させて頂いている。ホームの花火大会には近所の方も誘って来て頂いている。また、防災訓練にも参加して頂き、地域の方々の協力を得られている。	地域の理解と協力を得、地域の行事に利用者と一緒に参加をしたり、事業所の行事にも参加協力を得ている。回覧板でのやり取りも行い情報を共有し、双方の協力関係づくりに努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を年6回実施し情報を発信している。町内会とは回覧板のやり取りも行い情報を共有し気軽に立ち寄ってもらえる様にしている。散歩の際は近隣の方と気軽に挨拶を交わしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、御利用者やサービスの状況、報告のほかに毎回テーマを決めて話し合いも行っている。またそこでの質問や意見は、その後の活動やサービス向上に反映している。	運営推進会議は2ヶ月に一度開催し、家族、町内会役員、地域包括支援センター職員が参加している。会議では、事業所の近況報告のほか、同意を得てスライドで利用者の日常の暮らしぶりを見てもらっている。テーマを毎回決めて意見交換を行い、事業所の運営に反映させるよう取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当に委託されている包括支援センターの職員が毎回参加している。	運営者が行政担当者と連絡を密にし、情報交換や相談をしながら常に連携を図り、協力関係を築くよう取り組んでいる。また、利用者家族や地域の人に声をかけし認知症サポーター養成講座(キャラバンメイト)も開催している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外の研修に参加し参加できないスタッフへも伝達講習を行っている。	身体拘束に関する外部研修参加やマニュアルや資料を整備しており、内部で勉強会も行い、職員共通の認識を持ち、日々身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は勉強会に参加し、虐待についての理解を深めている。また、職員ルームに目的や定義を貼りだし、常に日々確認しながら防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に出席し、他職員にも伝達講習や勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、事前に見学を兼ねた話し合いや相談に応じている。十分な説明をして、合意を得た上で契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケートを実施している。またなじみの関係づくりにも役立つよう御利用者の意見には、積極的に耳を傾けている。出された意見もケアに活かせるよう努めている。日頃より話をしやすい雰囲気作り心がけ来訪の際には、さり気なく意見などを確認している。またケアプランを作る際には、意見を聞いてそのつど職員で話し合い反映するよう努めている。	家族には日ごろから利用者の様子を伝えたり、来訪した際には、意見や要望を話しやすい雰囲気づくりに努めている。年一回は家族アンケートも実施しており、アンケートをとることで家族の気持ちや要望を把握することができ、それらを日々のケアや運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1度個別面談を実施、その他諸問題発生時にはその都度意見交換を行っている。また毎月行う勉強会や職員会議でも意見や提案を行っている。	職員は、日常業務や勉強会、毎月の会議で意見交換を行っている。年に一度は個人面談も行き、意見や提案を聞く機会を設けている。また、運営者は、業務を行いながらの資格取得を薦め、職員の資質向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内外の研修等の情報を伝え、意見交換することにより個々が向上心を持てるよう努めている。連携を密にし、その都度状況に応じ柔軟な対応を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々がスキルアップできるように積極的に法人内外の研修への参加や、日々意見やアドバイスをを行っている。また参加出来なかった職員へは伝達講習という形で伝え共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に連絡会があり交換研修や職員研修に参加して情報を得、向上内容については話し合いのもと、取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に御本人と御家族に見学・面談を行い、生活情報や不安なこと、求めていることを聞き御本人と向き合うことで受け止める努力をしている。また入居前、状況によっては日中、他御利用者とは過ごす時間を設けるなどの対応を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	訪問時には御本人の情報・状況を伝え、またホーム長室も常時開放し気軽に相談できる環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスがあれば各所に相談して御本人や御家族の要望が聞き入れられる支援の対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活を共にすることで、御本人の思いや変化に気付き寄り添う中で解決できるよう努めている。また御本人の生活歴・生活史を理解し学ぶ事により、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の状況報告を伝えながら、不安や求めている事を一緒に悩み考え、支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人等に定期的に来訪して頂いたり、手紙を書ける方は書いて頂いたり、また電話でお話をして頂いている。居室には絵や写真を飾り思い出して頂いている。	知人との関係が途切れないように事業所に来訪してもらったり、家族の了解を得て、電話で話したり手紙を書いたりしている。また、馴染みのボランティアの来訪も楽しみにしており、利用者との会話や家族からの情報を得ながら柔軟に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や趣味等を把握し、ケアプランにも反映しながら職員が間に入り、談話やレク活動等の交流を持てるようお誘いしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の終了後でも相談を受け、いつでも関わりが持てる体制を整えている。退所後の様子を報告して下さった御家族もいた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやアセスメントの中で、一人ひとりの希望を聞きだし意向の把握に努めている。また御家族からの情報や協力を得ながら、意向に添えるように努めている。	職員は、利用者の希望や家族から情報を得たり、日ごろの利用者一人ひとりの仕草や表情、行動パターンから思いや意向を把握し、職員間で共有しできる限り意向に沿うよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人らしく安心して生活できるよう支援をするため、御家族や御本人から情報を得てプロフィールの中にも生活歴が記入されている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝夕1人ひとりの表情や体調を把握するように努めている。出来ることに注目しながら生活のスタイルや現状の把握をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度、御本人や御家族の思いや意見を聞き、反映させるよう努めている。また職員間の意見も取り入れながら、モニタリング、カンファレンスを行い作成している。	利用者や家族の思いや意向を聞き、担当者会議で話し合い、詳細なアセスメントを基に現状に即した介護計画を作成しており、3ヶ月毎に見直しを行っている。利用者の状況に応じて、都度見直しも実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態の変化・気づき等個々の記録に記載し情報共有を徹底している。記録にはケアプランの実践や結果を記入する欄もあり、介護計画の見直しに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医と連携し、入院・退院の際には、御本人や御家族の要望を取り入れ状況に応じた支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には包括支援センターの職員が参加したり、ケアマネジャーの指導や助言などで協働している。また、読み聞かせ・演芸等のボランティアを活用し、ご利用者に楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族の希望を踏まえて、かかりつけ医との連携を図り支援している。	母体法人である24時間対応の医療機関との連携や、月2回の訪問歯科や往診、利用者や家族の希望による他科への受診など適切な医療を受けられる体制が整っている。看護師もおり日常の健康管理が利用者、家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護職員が2名いる。一人ひとりの健康状態を把握しており、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。気軽に職員に相談でき信頼関係が築けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報を共有し、常時連携を取り、できるだけ早期に退院できるように努めている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人や御家族の意向を第一に考え、職員と医師等で話し合いを行い職員全員で方針を共有している。	重度化や看取りについての指針があり、利用開始時に説明し同意書を得ているが、状態の変化に応じ、利用者、家族の気持ちに配慮し、都度確認しながら職員と医師等で話し合いを行い、対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救命講習をスタッフ全員が受講しており、また確認のため勉強会や会議で行い、マニュアルも作成している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災においては年2回の避難訓練を行い、特に夜間想定訓練を強化し、地域住民と連携して取り組んでいる。災害に関してはマニュアルを作成し有事に備えている。	年2回昼夜想定避難訓練を消防署の協力を得て実施している。防災通報システムの連絡網には地域住民の協力も得るなど、連携して取り組んでいる。災害時の避難場所は、家族にも周知している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年接遇委員による勉強会を開き、言葉使いや対応について学んでいる。	接遇委員会があり勉強会を実施している。職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行わないよう注意を払っている。個人情報の書類も適切に管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々御利用者との関わりを持ち、傾聴しながら本人の思いに築き、又話しやすい環境を作れるようにケアに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の考えや都合を優先せず、御利用者さんを第一に考え、一人一人の希望やペース、暮らし方を大事に支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カットボランティアを定期的に提供している。身だしなみは、御本人の意見を尊重しながら、できない所は職員がさり気なく、お手伝いしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者の好みも聞きながら、献立を作っている。又食事は同じ席で、会話を楽しみながら召し上がっている。御利用者の状態をみながら盛り付けや食器拭きのお手伝いをして頂いている。	利用者は、職員と会話をしながらゆっくりのんびりと食事の時間を楽しんでおり、食事の準備や後片付けを、できる範囲で手伝っている。献立は利用者の希望も取り入れ、季節に合わせた食材を工夫しながら調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量摂取状況の記録を行い月1回の体重測定で栄養状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また月2回歯科の訪問診療がありチェックを行って状態の管理をしている。残存歯のある方は歯科より処方された口腔洗浄剤にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄を解りやすく表にし記入している。常時確認しながら声掛け、誘導を行っている。	職員は一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声かけにも注意を払い、タイミングを見てさりげなくトイレ誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の徹底や、野菜中心の食事メニューの取り組み、日中の体操等工夫している。やむ終えない場合も医師の指示にて下剤調整をおこなっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は個々で決まっているが、その日の体調や都合を確認し臨機応変に対応している。	基本的には入浴日は決まっているが、利用者の体調や希望に合わせてゆっくり入浴できるよう、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は御本人の負担にならない程度で活動を提供し、身体を動かして頂き夜間良眠できるように努めている。休息の有無も御本人の意思を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋はいつでも確認できるよう個々にファイルしており薬の副作用を記したのもも作成している また薬についての勉強会も開催し理解につとめている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事前に個々の生活歴を十分に把握し、ケアプランに盛り込みながら生活に活かし、日々張り合いや喜びを持てるようケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	業務の効率化を図り、少しの時間でも戸外へ散歩にでかけられるよう支援している。	利用者の希望に応じ、毎日の散歩や買い物、花への水やりのほか、年間の行事を計画し、夕食やドライブ、祭り、事業所内の花火大会、花見など外出の機会を設け、戸外に出ることで季節を感じるができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分で管理できる方には、御家族とも相談し了解を得て少額だが、所持できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人が御家族に電話したいと訴えた時には、御家族にも了解を得て、できるだけ自由に電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のディスプレイや行事参加の写真を貼ったり、常に日光の陽が入るように工夫している。また食堂と居間を別に設け入居者や来所されたお客様がコミュニケーションがとれるようにしている。	建物全体に清潔感があり採光も良く、食堂と居間が分かれており、広くゆったりとしている。各所にソファーやベンチを置き、トイレも3ヶ所設置している。壁面には行事の写真を飾っている。壁かけやインテリアも落ち着いた雰囲気、利用者が居心地よく過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間に大きなソファーを設置し自由に語り合えるようにし、プライベートやコミュニケーションを大切に出来るよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用されていた家具や食器などなじみのある物を生活スタイルに合わせて用意して頂いている。また危険が無い様に御家族と相談し模様替えも行ってている。	居室内は広く、利用者は、馴染みの調度品を持ち込み、配置もそれぞれ工夫し思い思いの飾り付けをしており、利用者が安心して居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリー対応で手摺りがついている。個々の状態に合わせてトイレの手摺り設置に違いを出し、利用する場所を変えている。		